

6-13-AB 参考資料

応急手当の方法


配付先：学生・教職員 更新日：2005年3月31日

1. 止血


こうして行う②

応急手当のやり方 1 止血をするとき
傷口から出血しているときは、早めの止血が必要です。

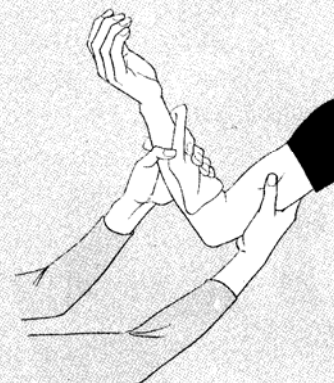
(直接圧迫止血)
清潔なガーゼやハンカチを傷口に当てて手でしっかり押しさえたり、包帯を少し強めに巻いて圧迫します。



(間接圧迫止血)
傷口より心臓に近い止血点（動脈）を指や手で圧迫して止血します。



(直接圧迫止血 + 間接圧迫止血)
直接圧迫止血だけで血が止まらないときは、間接圧迫止血も併せて行います。
すぐに直接圧迫止血ができないときは、まず間接圧迫止血を行います。



2. 骨折

応急手当のやり方 2 骨折の手当てをするとき

腫れていたり、皮膚が変色していたり、変形しているときなどは、骨折の恐れがあります。



(腕の骨折)

ヒジから指先までの長さの固子を、骨折部分の外側と内側から当てて固定します。

固子が1つしかないときは、手の甲側から当てます。

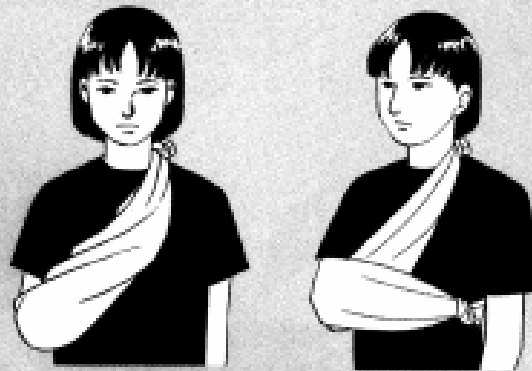
※ 固子 = 骨折部を固定させるために身体に当てるもの。板や棒、新聞の束や週刊誌、布巾などを状況に応じて代用することもできる。

(指の骨折)

指の長さの固子を、骨折部分の外側と内側から当てて固定します。

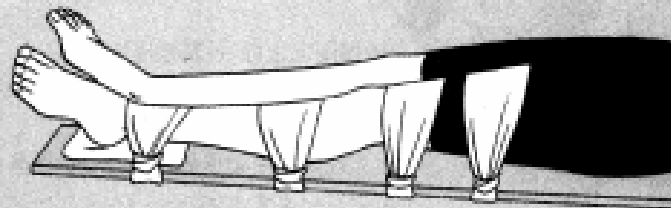
(鎖骨の骨折)

負傷者にとって最も楽な位置に手を置かせ、三角巾の頂点をひじ、一辺の端を肩に当てて、残りの一辺の端をわきの下から通して背中に当て、肩の上で結びます。このとき、頂点は止め結びにします。



(ひざの骨折)

でん部からかかとの先までの長さの固子を、下肢のうら側に当てて固定します。このとき、ひざ、足首、かかとは、やわらかいものを入れておきます。



3. 人工呼吸

応急手当のやり方 3 人工呼吸をするとき

呼吸が停止していたり非常に小さい場合は、人工呼吸を行う必要があります。

(顔を後方に下げ、下あごを押し上げた状態で気道を確保しているとき)

- ① 気道を確保したまま、額に置いたほうの親指と人さし指で負傷者の鼻をつまみます。



- ② 深く息を吸ってから、自分の口を大きく開けて負傷者の口をふさぎ、静かに大きく連続2回息を吹き込みます。



- ③ 口を離し、負傷者の口に耳や頬を近づけて呼吸を確かめます。



- ④ 脈拍を確認し、脈があれば、5秒に1回の吹き込みと呼吸しているかどうかの確認を繰り返します。

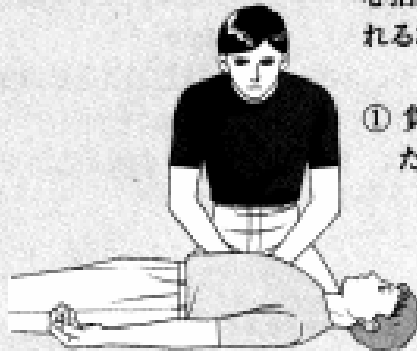
※気道確保=空気が肺まで通るように気道のつまった状態を取り除く方法。気道が開通していないとどんな人工呼吸も効果がない。

4. 心臓マッサージ

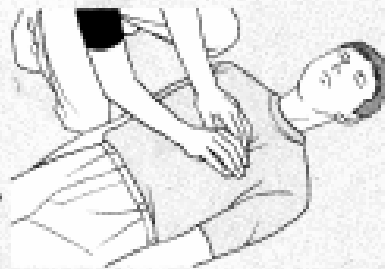
応急手当のやり方 4 心臓マッサージをするとき

心拍が停止していたり心臓の機能が低下していると思われる場合は、心臓マッサージを行う必要があります。

① 負傷者を床の上に仰向きに寝かせ、負傷者の胸のあたりにひざをつきます。



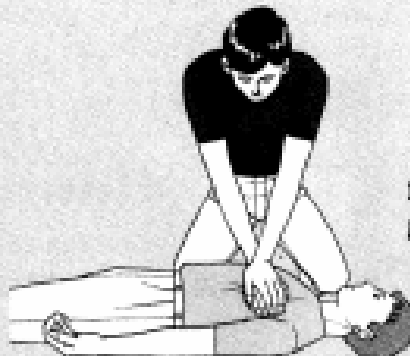
② 圧迫点を探して、手のひらを置きます。



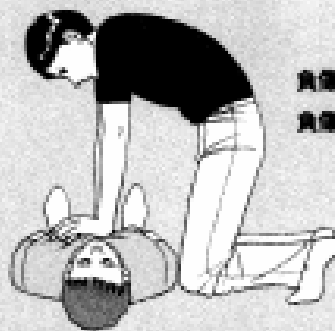
③ 手のひらを重ねて1分間に80～100回程度の速さでマッサージを行います。



負傷者の横から見て、救助者の身体の中心線が圧迫点の真上にくるように



負傷者の顔部から見て、救助者の両肩が負傷者の胸骨の真上にくるように



●心臓蘇生法を効果的に行うために「人工呼吸」と「心臓マッサージ」を組み合わせることもあります。

